

「現地メディア向けプレスツアーを行いました」

2016年11月22日、現地メディア向けプレスツアーを実施し、新聞・テレビ6社7名のジャーナリストとカメラマンが参加しました。このプレスツアーは、日本の開発協力が現地メディアで取り上げられる機会を増やし、ヨルダン国の政府関係者、知識層及びヨルダン国民への情報発信を強化するためのものです。

プレス一向は、ナウル市において「シリア・アラブ共和国から流出した難民及び同国の国内避難民に対する緊急無償資金協力」、死海近くにおいて「観光セクター開発プロジェクト」（円借款）及び「太陽光を活用したクリーンエネルギー導入計画」（無償資金協力）、アンマン市において「次世代自動車ノン・プロジェクト」（無償資金協力）の視察を行いました。

「衛生環境能力の向上を通じたシリア難民・ホストコミュニティ支援」

大使館があるアンマン市からバスで約25分、「シリア・アラブ共和国から流出した難民及び同国の国内避難民に対する緊急無償資金協力」プロジェクトの一部が実施されたナウル市に到着。ナウル市には、シリアの戦火から避難してきた難民が多く居住しており、人口増加に伴うゴミの増加から、ゴミ収集のキャパシティ不足に陥っていました。そこで、日本はゴミ収集のキャパシティを強化し、同市の衛生環境の改善を図るためにゴミ収集車を供与しました。ナウル市長は、プレスツアー参加者に対し、プロジェクトの概要や成果を説明し、日本からの支援に対し感謝を述べました。プレス参加者からは、「元々インフラ整備が遅れている地域に大量の難民が流入することで、様々な問題が発生している。日本の支援は、現状を迅速且つ効果的に改善できる取り組みである。」と日本の支援を評価する声が聞かれました。



ゴミ収集を行っている市の職員



市長に質問をする参加者（中央の男性がナウル市長）



市役所内で説明を受ける参加者

「死海の保全を通じた観光振興の推進」

次にプレス一向を乗せたバスが向かったのは、観光地として有名な死海。観光は、天然資源に恵まれないヨルダンにとって外貨獲得に繋がるとも重要な産業です。ここでは、「観光セクター開発プロジェクト」（円借款）により建設された、死海の歴史や湖面低下問題等を学ぶ

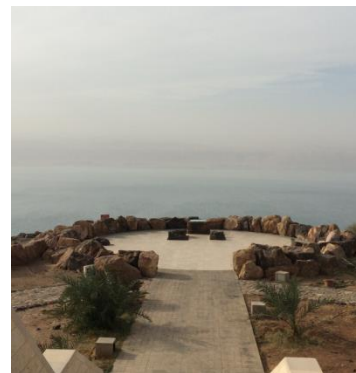
ことができる複合施設「パノラマ・コンプレックス」及び無償資金協力「太陽光を活用したクリーンエネルギー導入計画」によりパノラマ・コンプレックスに隣接して設置された太陽光発電パネルを視察しました。プレス参加者からは、視察を通し、死海が気候変動や環境破壊から受けている影響の深刻さを知り、日本の支援によるクリーンエネルギー開発に対する期待の聲が上がりました。



パノラマ・コンプレックス内の展示場を視察する参加者



太陽光発電パネルを視察する参加者



パノラマ・コンプレックスからの眺望

「環境問題改善を目指したハイブリッド車の普及促進」

最後に一向は、無償資金協力「次世代自動車ノン・プロジェクト」の一部が実施された計画・国際協力省を訪問しました。ヨルダンは、エネルギー需要の大部分を輸入に頼っているため、省エネルギーや再生可能エネルギーの分野に積極的に取り組んでいます。計画・国際協力省の担当者からは、「日本は、低燃費で環境にも優しい日本製の自動車を供給することにより、環境分野におけるヨルダンの努力を後押ししてくれている。また、次世代自動車を国民が町中で見かけることにより、環境問題について、国民の関心が少しでも高まることを期待している。」と説明がありました。プレスツアー参加者からは、「日本の優れた環境技術を称賛しつつ、国民一人一人の意識改善を訴えることが必要である。」という声が聞かれました。



計画・国際協力省担当者との意見交換



供与した自動車の前で説明を受ける参加者

プレスツアー後、各紙・テレビで、今回のツアーで訪れた ODA 事業が報道されました。多くの庶民が目にする新聞各紙やテレビで開発協力事業が取り上げられることで、ODA を通じたヨルダンに対する日本の協力への理解がより一層深まったのではないかと思います。